

平成 29 年度第 2 回三田市総合教育会議 議事録

| | |
|----------------|--|
| 会議の名称 | 平成 29 年度第 2 回三田市総合教育会議 |
| 開催の日時 | 平成 29 年 12 月 21 日（木）11 時 00 分～12 時 00 分 |
| 開催の場所 | 市役所本庁舎 3 階 302 会議室 A |
| 出席した委員の氏名 | 森市長、鹿嶽教育長、虫明教育委員、中上教育委員、吉田教育委員、田口教育委員 |
| 出席した庶務職員の職及び氏名 | 城下理事、高見健康福祉部長、岡崎学校教育部長、印藤地域戦略室長、奥こども室長、福本学校教育部次長、田中政策課長、横溝健やか育成課長、外岡教育総務課長、古井学校教育課長、村岡学校教育課参事、上野教育総務課副課長、藤田政策課係長、松田教育総務課指導主事 |
| その他出席者 | なし |
| 傍聴者の人数 | 1 人 |
| 議 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査（速報結果）について ・グローバル人材の育成について |
| 会議の概要（結論） | 子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査の速報結果及びグローバル人材の育成について議論した。 |
| 公開・非公開の区分 | 公開 |
| 使用した資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査（速報結果）について ・三田市教育大綱 方針 2 『グローバル人材の育成』の取組みについて |
| 連絡先 | 地域戦略室 政策課 電話（079）563-1111 内線（2212） |

1 開会

印藤地域戦略室長の司会により開会、配付資料の確認等

⇒「三田市総合教育会議の運営等に関する規程」第 4 条第 5 項に基づき、議事進行を森市長に交代

2 議事

(1) 子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査の速報結果について

◆奥こども室長から説明

森市長：事務局の説明について、ご意見やご質問をお願いします。

鹿嶽教育長：学校を通じて実施したので、もう少し回答率が高いと思っていましたが、通常の市民意識調査と同程度であり、一定の回答数を得ることができたと思います。

その中で、三田市は所得階層の高い方が比較的多いということもあり、このような結果になっていると思います。子ども達の学校での生活を見ていると、家庭環境との関わりが大きい。いろいろな報告をいただく中で、支援が必要な子どもについて、学校の先

生は家庭まで踏み込んだ中で改善をしようとしています。一人親が最近多くなってきている中で、子ども達にどんな支援ができるか、教育現場でも考えていかなければならないと考えています。

また、行政と教育の役割分担という意味では、子どもの貧困への取り組みにおいて地域との連携が非常に重要と考えており、今後も市長部局と協力して子どもの貧困対策に取り組んでいきたいと考えています。

吉田委員：地域で支える子育てや地域コミュニティの醸成について、学校はコミュニティスクールを本格的に実施しようとしています。そういった意味では、地域の方、高齢者の方を中心に学校に出てきてもらったらいと思いますが、そのことの周知がまだまだできていないと思います。例えば、生涯学習カレッジでそういったアピールができたらうれしいと思います。学校は高齢者に来ていただいたらうれしい、子どもの成長につながるということを共通認識しないと、地域の方は学校に行ったら迷惑ではないかと思われています。また、学校としてもひと手間必要ですので、教育委員会としてテコ入れをしないといけないと思っています。

2点目として、行政と教育の役割分担について、他市の例ですが、幼稚園や小学校の子ども達の虫歯が大変多かったのですが、学校で週に1回程度フッ素のうがいをする事で、虫歯が劇的に減ったという事例があります。

三田市は医療費を助成していますが、あまり予算のかからないフッ素うがいをすることで、医療費の削減や一生ものの歯を守ることができます。子ども期の歯の大切さは、みんなが知っています。また経済的困窮者に虫歯が多いなどのデータがあるそうですので、貧困対策として行うことが、すべての子どもにとっていい影響を与えたいと思います。できるだけ先手を打つような対策ができればと考えています。

森市長：コミュニティスクール等の現状はどうなっていますか。

事務局（古井学校教育課長）：現在、コミュニティスクールは小学校で9校、中学校で3校、計12校で推進しています。

森市長：フッ素については、一度事務局で調べてください。確かに子どものときに歯のケアがきちんと行われているというのは大切だと思います。また、虫歯だけでなく歯周病は万病の元になっていますので、家庭教育も大事だと思います。地域の方に学校現場に来てもらう件についてどう考えますか。

鹿嶽教育長：来ていただきたらと思います。地域のなかでも高齢者の方々が、地域で地域の子どもを育てるという考えで、活躍できる場を作っていきたいと思っています。

事務局（印藤地域戦略室長）：現在、学校や地域、家庭の連携が非常に大きなテーマとなってい

ます。委員が指摘された地域住民が学校に入っていくことについて、学校現場との調整やそれぞれの意識の差という課題があります。学校現場で地域住民に対して求めていることと、地域住民が学校でやりたい活動のすり合わせが難しいということがあります。教育現場の考えと社会教育の場ということを調整する機会が必要だと思います。

鹿嶽教育長：コーディネートする人がいるということが大切だと思います。経済的困窮の問題も、その家庭や子どものみをとらえて対応するのは難しいと思います。全体として施策を打つことで、経済的困窮の子ども達にも対応できるというような、施策の打ち出し方が大事だと思います。

田口委員：高齢者に限定した社会参画の場として、学校教育を考えてしまうと門戸が狭くなってしまいます。高齢者の方の大半は、自分が高齢者と考えていないと思います。

私は 65 歳になって介護保険上の取扱いでは高齢者ですが、自分では高齢者だと思っ
ていません。70 歳や 75 歳になってもまだまだ元気な方がいるので、社会福祉協議会や
民生委員児童委員が支援対象とする高齢者を一概に年齢で引かない方がいいと思いま
す。

多くの方に学校教育に関わっていただくときに、高齢者限定ではなくて、地域の方で
志のある方はどんどん参加してほしいと思います。年齢に関係なく社会貢献する場とし
て、学校という良い場所があるということを情報発信する必要があると思います。

(2) グローバル人材の育成について

◆福本学校教育部次長から説明

森 市 長：事務局からの説明に対してご質問やご意見をお願いします。

吉田委員：これからの社会を生き抜く子ども達は、予測できないことにぶつかることが多くなり
ます。そういった意味で、生きる力をもった子どもを育てていかなければなりません。

英語教育については、現在、中学校で英検や I B A を実施していますが、希望する生
徒には、何度もチャレンジできる機会を与えてほしいと思います。

次に、世界の人から日本人が信頼されてきた理由として、勤勉さ、正直さといった日
本人の気質によるところが大きいと思います。それらは、日頃の家庭や学校での積み重
ねのなかで形成されるものですが、最近はややしくなっていると感じます。グローバ
ル化だからこそ、家庭や教育のなかで見直す必要があります。

一つの提案ですが、小学校の掃除の時間に地域の方に来ていただいて、ほうきの使い
方や雑巾の絞り方、草の引き方を子ども達に付き添って教えてもらいたいと考えます。

森 市 長：英語検定や掃除の実施状況はどうなっていますか。

事務局（古井学校教育課長）：英検については、現在8中学校中2校で実施しています。また、任意で受験している生徒もいます。ただ、ヒアリング等も含めて実施時間が長いことから、教育課程のなかで実施することが難しいのが現状です。一方、I B Aは45分で終了することから、試行的に4校で実施して成果が上がっています。

また、掃除については、中学校では6校時が終わった後に、分担して実施しています。

事務局（岡崎学校教育部長）：小学校では、給食を食べた後に20分ほど掃除を実施しています。家庭でほうきや雑巾を使ったことがない子どもが多く、一から教えています。掃除をするなかで、美しくなれば心もきれいになるという道徳的な要素もあることから、しっかりと取り組んでいきます。

森市長：委員から提案のあった掃除の時間に地域の人に関わっていただく件については、ぜひ検討してもらいたいと思います。また、いろいろな意見がありますが、道徳の授業のなかで、これまで日本人が培ってきたアイデンティティを取り扱っていますか。

事務局（古井学校教育課長）：道徳については、小学校では来年度から、中学校では再来年度から教科化されます。内容項目は19～22項目あり、勤労の大切さや公平公正などについて、35単位時間をかけてしっかりと指導していきます。

森市長：良い意味で日本人が培ってきたものは継承していきたいし、そのことが海外から信頼されることにつながります。

田口委員：グローバル化のなかで、国や自治体のミッションを子ども達にはっきりと示すことが大切です。その原点になるのは、世界人権宣言にあるように、世界人、地球人として当然持つべき人間性を日本人がどう発揮するのか、また、日本にいられた外国人にどう接することができるのか、多様性を認めて人権を尊重するといった社会をつくるというミッションを子ども達に教えていかなければならないと思います。

人口問題や環境問題の解決も大切ですが、一番身近なところで、地球に住む同じ人間として何を大切にしていけないといけないのか自治体がしっかりともっていないと、何のためのグローバル化なのか子ども達に伝わらないと考えます。

具体例として、障害のある人にとって駅が本当にバリアフリーになっているのか考えた場合に、使いづらいエレベーターの設置位置であるとか、分かりづらい表示であるとかを点検し、気づいたことがあれば発信していける子ども達を育てていかなければなりません。グローバル化とは、多様性を認められる子ども達を育てることと言えます。そういった共通理解をしたうえで行政と教育も取り組んで行くために、議論する場が必要です。

森市長：委員の指摘のとおり、世界各地や日本でも様々な問題を抱えており、かつてのような

多様性を認める寛容な社会がゆらいできています。グローバル化は、外に出ていくだけでなく、受け入れることの両方が大切です。

三田市は伝統的に人権を重視したいろいろな取り組みを進めてきており、教育の場においても、多様性を認めることや、人権尊重、平和を訴えるような取り組みを進めてもらいたいと思います。

鹿嶽教育長：グローバル化というと世界に目を向けがちですが、三田市教育大綱の「ふるさと意識の醸成」のとおり、三田から世界に羽ばたいていった子ども達が、最終的にふるさと三田に帰ってきて、自分達が学んだことを次代の子ども達に伝えてくれることが一番の願いです。

(3) その他

田口委員：総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により平成27年から法的に整備され、市長が教育行政や施策に関しリーダーシップを発揮する形が整えられました。法改正は、滋賀県大津市で発生したいじめが原因であったと記憶しています。その後、全国的に各自治体単位で総合教育会議の場が設けられていますが、新聞記事等を見ると、三田市は別として、そこまで考えた動きが行えているのかどうか疑問です。未だにいじめを隠ぺいする体質が各地の教育委員会には見受けられ、いじめの定義をはじめ、対処の注意喚起をどこかで発信しなければならないと思います。中には「いじめの原因がいじめられる側にある」とした児童・生徒によるアンケート結果が、直ちに削除されたものの、インターネット上に記事として一時的に公開されていた自治体もあります。被害者側に立った立場で絶対に許せない侵害行為であるということ子ども達に一から教えていかなければなりません。そのためには組織として、あるいは市長自身が自覚しなければならないと思います。そのことが教育委員会制度を改正した一面ですので、こうしたことを市長会等の場を通じて発信していただけたらと思います。

森市長：私も、滋賀県大津市の件がきっかけとなって教育委員会制度が改正されたと認識しており、これには教育委員会と学校とが隠ぺい体質があったことが要因として挙げられると思います。そういう意味では、教育の問題についても、市長としてある程度は教育委員会の自主性に任せながらも、大事な部分は自らが実施していかなければならないと思います。組織内の風通しの悪さ、どうしても不都合なことを放置する、あるいは隠すといったことは、まずは大人の世界からしっかりと正していかなければ、子ども達の模範になりません。私は、現在、兵庫県市長会の理事に就任しており、また、全国市長会でも子どもに関連する部会に所属していますので、できる限りいろいろな形で三田が率先してこれからも取り組んでいきたいと考えています。

森市長：それでは、以上をもって本日の会議の議事は終了させていただきます。

3 その他

次回の総合調整会議は、年度内の開催に向けて今後日程調整を行うこととした。

以 上